

パブリックコメントの意見の概要とそれに対する考え方（案）

1 提出された意見等の概要とそれに対する考え方

整理 番号	意見等の概要	審議会の考え方（事務局案）
1	文化を取り巻く課題を読ませていただくと、全く指摘どおりだと思う。市民の思いをひとつずつ改革改良していただきたいと思う。	基本施策3に記述してあるように、広く市民の意見を聴く機会を設けるなど、市民、団体等の連携を深めながら、文化振興に取り組んでいく必要があると考えます。
2	図書館は長年の夢であったが、遅きにあり、電子本が出てくる中、広大なものより次世代が利用しやすいように。他市と連携して貸し借りができるといいと思う。	図書館等、文化施設の整備は文化資源の発掘、保存、活用のほか、子どもの学習機会の充実等も関連するものです。具体的な活用方法については今後の検討課題であると考えます。
3	じょうとんバスも近隣と連携して、市民の利用しやすいようにしてほしい。じょうとんばホールでの催しがある時も、臨時バスを出して駅から遠い方にも運んでいただいで集客する。	基本施策の3において、多くの人が各種イベントに参加できるような環境づくりについて記述しています。文化に接する場や活動、発表の場の拡充を図ることにより、基本施策4にある市外からも集客のあるイベントの実施も可能になると考えます。
4	観光マップ、ガイドさん付きで、じょうとんバスにて月1回予約を受けて回れば、皆の行けない所、知らない事、文化を知ることになる。	じょうとんバスを利用した観光等は、文化資源の発掘や普及、学習機会の充実、魅力あるイベントの実施等に関係しており、今後、事業を計画する際に検討されるものと考えます。
5	アナゴだけでなく、尉姥人形（昔、焼き板であった）など、高砂のお土産を何か作れば良い。	基本施策5において、高砂の特性を活かした特産品の開発、販売の支援について記述してありますが、市民の方からのアイデアも参考にすべきだと考えます。
6	文化伝承として、母子に昔の歌、童謡のほか、昔の語り歌を残したい。	基本施策1において伝統文化などの継承者の育成、子どもの学習機会の充実として記述していますが、親から子へ伝承していく歌や昔話なども大切にしていける必要があると考えます。

7	昔のいいものを残しておく場所（博物館）がない。全部捨てたり、消えたり、他市へ渡っている。	文化資源の保存については、次世代に継承し、活用していくことの重要性を基本施策2において記述していますが、保存場所、保存方法など検討していく必要があります。
8	高砂学の勉強の場ができて、とても良い。一般市民にとってはちょっと専門的なことが多い感じがする。高砂学を聴く機会ができ、多数の方が参加しているのにびっくりした。	高砂学のような歴史文化を学ぶ講座については、基本施策2の文化を学ぶ機会だけでなく、基本施策1の文化を担う人材の育成にもなると考えます。
9	向島は自然とふれあえる場所である。じょうとんバスを巡回させるなど、もっと市民が手軽に集える場所にする。勤労会館跡地に多目的文化基地（青少年や高齢者が集える場所）として何か建ててほしい。	市民の文化活動、発表の場の拡充については基本施策3に記述していますが、財政的な問題もあるため、既存施設の活用も含めて検討する必要があると考えます。
10	「生活文化都市」へのさまざまな取り組みを初めて知り大変感銘を受けた。高砂学を無料で受講できたり、高砂発祥の伝統文化で、謡曲「高砂」の伝承活動等は充実したものだと思う。	「生活文化都市」として文化そのものの振興に加え、文化を活かしたまちづくりに取り組むことを目的に条例を制定しました。この基本方針によって施策を総合的、計画的に推進していきます。また、謡曲「高砂」については、高砂市の文化振興のシンボルとして位置づけています。より多くの市民がともに文化の伝承を大切に思い、取り組んでいく必要があると考えます。
11	伝承活動や講座開講のお知らせを市外や国外に向けて発信してはどうか。インターネットのようなツールを積極的に利用して、文化振興について常に広範囲に情報を発信していくのも良い。（文化振興専門のフェイスブック公式ページを設け発信連携を図る等）市内外の人は勿論、特に若い人は高砂の素晴らしい文化財産を知らないのが惜しいので、これから高砂を担っていく若い世代へ特化した形の情報発信、文化伝承コンテンツがあっても良いのでは。	イベントや文化資源の広報など、さまざまな媒体を活用し、文化情報の収集、発信できる仕組みを整えていくことについては基本施策3において記述しています。また、情報の収集、発信に関しては、基本施策1の文化を担う人材の育成や基本施策4の文化交流の促進にもつながることであり、文化振興すべてにおいての重要課題であるといえます。

1 2	<p>謡曲「高砂」ひとつにしても、あんなに素晴らしい曲を謡える若い世代がない。若い人に取り入れ易いようにポップス調にすれば良いという意見もあるが、やはりきちんと伝統的な形で学び、それを極める必要がある。学校の授業等で謡曲のレッスンを取り入れるぐらいのダイナミックさは必要ではないかと思う。</p>	<p>謡曲「高砂」については文化振興のシンボルとして位置づけ、基本施策1の伝統文化などの継承者の育成等に記述しています。また、小・中学校においては、「ふるさと高砂学」の学習として、謡曲「高砂」が取り入れられています。今後、謡曲「高砂」などの伝統文化を学ぶ機会の充実や基本施策5にある地域の活性化につながるような事業を計画、検討されるものと考えます。</p>
1 3	<p>担い手について</p> <ul style="list-style-type: none"> • 企業協賛で担い手になると考えれば、企業がもっと担い手になるところがある。 • 市民や団体が今も担い手になっているものや今後なりうるものがある。 • 学校が担い手になって子ども達に指導する。 <p>ほとんど5者が関わるものではないか。</p>	<p>担い手については、ご指摘のとおり、市民、団体、学校、企業、行政の5者それぞれが関わり、連携と協働によって文化振興を支えることが大切であると考えます。第6章の担い手については省きます。</p>
1 4	<p>10年後を見越して作成する基本方針の具体的な施策例として、今やっている内容と検討中の内容だけではインパクトが弱い。これからを見据えた施策例を例として挙げたほうが良いと思う。</p>	<p>施策例については、現在実施中あるいは検討中の施策の一例であり、今後、事業を計画する際に、基本方針に基づいた検討をし、市民と行政が一体となって実行していくことが大切だと考えます。</p>

その他、「初めて聞くことばですので、意見らしい事は書けませんが、興味はありますので、今後ともよろしくお願いします。」との感想をいただきました。

2 意見提出数

提出方法	人 数	件 数
ファクシミリ	1	9
電子メール	2	5
合 計	3	14